

相模湾における最長のタチアマモの
直立シュート

大森雄治*

The longest erect reproductive
shoot of *Zostera caulescens* MIKI
(Zosteraceae) in Sagami Bay

OMORI Yuji*

キーワード: アマモ科, 海草, 相模湾, タチアマモ, 直立シュート

Key words: erect shoot, Sagami Bay, sea grass, *Zostera caulescens*, Zosteraceae

タチアマモの直立シュートは、世界に60余种ある海草中もっとも長いことで知られ、三陸海岸中部の船越湾では水深4~16mから最長約700cmのタチアマモが採集されている(相生・小松・盛田, 1996)。一方、本種の分布の太平洋岸における南端に位置する相模湾ではこれまでの最長530cm(工藤, 1999)を記録している。2001年7月5日に相模湾東部の小田和湾内笠島周辺で筆者らがタチアマモの分布調査をしたところ、最長560cmの直立シュートを記録した。

笠島の外洋に面した西側は岩礁だが、陸に面した東側は砂底で、タチアマモが分布している。今回の分布調査では、笠島の東部から北部の海域を潜水して水深3~11mまで探査した。その結果、分布の最大水深は9.8mまで確認することができた。このうち直立シュートの密度の高い群落3か所、水深3.4m, 5.2

m, 7.9mでサンプリングしたところ、水深7.9mで長い直立シュートが多く、そこで40シュートを採取しサイズを測定した。その結果は以下の通りである。

	茎長 (cm)	葉長 (cm)	全長 (cm)	標本数
変異幅	32-455	87-241	130-560	N=40

相模湾におけるこれまでの記録は、天神島で打ち上げられた直立シュートでは最長413cm(大森, 1989)、笠島周辺の水深4~6mでは最長360cm(大森, 1994)、佐島港では最長250cm(寺脇・川崎・飯塚, 1986)、小田和湾内の分布調査では最長530cm(工藤, 1999)であるので、今回得られた試料は、既知の記録に比べ最長のものであった。

これまでの記録から採集地の水深と生殖シュートの長さの相関をみると、水深が深いほど生殖シュートの長さが長くなる傾向がある。ただし、今回最大の水深を記録した水深10m付近では個体がまばらで、しかも大きな個体は少なく、光量が不十分なためか成長が制限されていることが示唆された。

最長のタチアマモが記録された岩手県三陸海岸中部の船越湾における本種の分布域は水深4~16mである(相生・小松・盛田, 1996)。船越湾では小田和湾とほぼ同時期に直立シュートの成長が始まり、夏の果期にも枯れることなく、冬期まで直立シュートが残ることが知られており、水深による影響だけでなく、成長期間の長さも直立シュートの長さに関係していると推測される。

*横須賀市自然史博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238-0016.
原稿受付 2001年11月30日. 横須賀市博物館業績第568号.

引用文献



第1図. 特別展「自然からのおくりもの」に展示された相模湾で最長のタチアマモ (最長560 cm)

なお、採集された大きなタチアマモは、生育状態を再現すべく、直立した状態で、2001年夏に博物館で開催された特別展示「自然からのおくりもの」に展示された(第1図)。

調査は大楠漁業協同組合のご理解の下で行われ、潜水調査は南伊豆海洋生物研究会の國井光子、齋藤映子の各氏にご協力いただいたので、記して謝意を表する。

相生啓子・小松輝久・盛田孝一 1996. 岩手県・船越湾で発見された巨大海草—タチアマモ—について. 水産海洋研究, 60(1): 7-10.

工藤孝浩 1999. 三浦半島, 小田和湾における海草群落の分布. 神奈川県水産総合研究所研究報告, (4): 51-60.

大森雄治 1989. タチアマモとオオアマモの花枝と葉の形態. 横須賀市博研報 (自然), (37): 55-59.

大森雄治 1994. タチアマモ (アマモ科) の相模湾における生殖枝の季節変化. 横須賀市博研報 (自然), (42): 65-69.

寺脇利信・川崎保夫・飯塚貞二 1986. 三浦半島小田和湾におけるアマモ属3種の季節変化. 昭和61年度日本水産学会秋季大会講演要旨集: 55.